



緑肥・緑化の部屋 10

～環境保全の実践を目指して～

タキイ種苗(株) 営業部 緑化飼料課

今回は、1年中常緑を楽しめる芝草について品種の使い分けなどをご説明します。

Q

庭のコウライシバは寒くなると茶色くなってしまいます。サッカー場やゴルフ場の芝は冬も緑ですが、同じように、庭の芝でも冬の緑を楽しむ方法を教えてください。

A

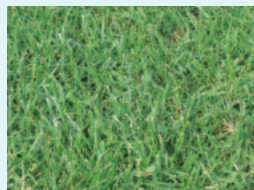
一口に芝草といってもさまざまな品種があり、それぞれに特長があります。場面や場所に応じてそれらの品種を使い分けていますが、サッカー場やゴルフ場のように冬でも緑の芝生にするためには、二つの方法があります。

一つ目は「常緑の草種を選択すること」、二つ目は「2種類の芝を季節に応じて使い分けること」です。それぞれについて、簡単にご説明します。

◆常緑の草種

- 「ケンタッキーブルーグラス」
- 「トールフェスク」
- 「ペレニアルライグラス」など

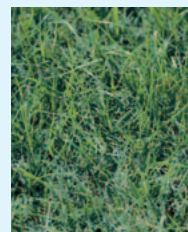
これらの草種は寒地型芝草と呼ばれ、寒さに強く1年中緑の状態を保ちます。高温多湿をやや苦手とするものが多く、梅雨から夏にかけて密度が落ちたり、品種によっては枯れてしまうものもあります。それぞれの品種特性と栽培する場所の条件に応じて、草種や品種を使い分けます。また、生長が早く、こまめな芝刈りが必要になるなど管理にやや技術が必要です。葉色が濃く、キメの細かい上質な芝生を作ることができるので、手間をかけて一味違う芝生を作りたい方はチャレンジしてみたい方が多いのではないでしょうか？ タキイでは、これらの寒地型芝草をブレンドした「J・ターフⅡ」も販売しています。



↑ 手間ひまかけて芝生作りを楽しみたい方におすすめの「J・ターフⅡ」。

◆二つの芝を季節に応じて使い分ける

ご家庭の庭によく使われるコウライシバ、公園で見かけるノシバ、競技場などの利用が多いティフトン芝などは暖地型芝草と呼ばれます。暑さに強く、管理しやすい芝草ですが、寒い時期には地上部が茶色くなります。サッカー場やゴルフ場などでは、これらと暑さに弱い寒地型芝草の品種を組み合わせることで、春から秋までは暖地型芝草、秋から春にかけては寒地型芝草といった2種類の芝草を使って常緑の芝生を作っている所があります。この方法をウィンターオーバーシーディングといい、タキイでは専用品種として「サツキワセ」という品種を販売しています。



↑ コウライシバへのウィンターオーバーシード状況(40~50g/m²)。

← 真冬でも緑の状態を美しく保つ「サツキワセ」。

年々参加が増える

「2010年 芝草フィールドデー」開催レポート!

(編集部)



講演時の様子。お客様は芝草の知識をより一層深められた。

7月29日(木)、滋賀県のタキイ研究農場で「第18回芝草フィールドデー」を開催しました。今回はゴルフ場や造園業、官公庁関係者など93社180名の方々にご来場いただきました。圃場検討会の前には、日本大学生物資源科学部専任講師の藤崎先生をお招きして「校庭緑化の現状と課題」について講演が行われ、芝草の基礎知識や校庭緑化の活動内容、後半は芝を利用した紙すきや絞り染めの紹介といった今までにない趣向で、お客様はとて興味を示された様子です。

その後、展示圃場へと移動し本格的に比較・検討が始まりました。今年は11草種約250品種を展示。定評の「サツキワセ」のほかにも「ムーンライトSLT」が好評で、1年目だけでなく

暑い夏を過ごした2年目の圃場にもより注目が集まりました。また、ベントグラスは播種後4年目となるものを展示。永続性の面からも、ゴルフ場関係者から注目を集め、中でも「クリスタルブルーリンクス」は耐暑性にすぐれて良質な芝質を維持できる点が注目されました。

都市緑化が進む中で要望が高まってきている日陰に強い品種については、耐陰性試験圃場(遮光率50%)を設置。こちらも来場者の関心が集まりました。

芝草の利用場面が広がりを見せる中、ニーズも多岐にわたっています。そのような中でも有力なアイテムがそろうタキイの芝草は、今後もお客様のお役に立てるよう、品種の充実を図ってまいりますのでご期待ください。



播種4年目となる「クリスタルブルーリンクス」。耐暑性が強く最も注目を集めた。